

憲法生かし大軍撃阻止

公布77年 国会前に4000人

田中邦義法が公布された77年の3月、全国各地で憲法を生かした社会の実現を求める宣伝や講演会が行われた。国会正門前では、織方から行動実行委員会の柴崎義之・全国市長アソシエーションが主催した憲法大行動が取り組まれ、強烈な表現のやん平民と賛成団体約4000人(非暴力原則)が、「戦争反対」「憲法を守る」などのスローガンでパレードを行った。

→ 記録の面

小池書記あいさつ

②「憲法守れ」と声を上げる人たちの連帯のあいさつをする小池晃書記局長(中央)と子添拓(左)、吉嶋よしこ(右)の両参院議員=3日、国会正門前

在職者あいさつをした後、「憲法守れ」と声を上げる人たちの連帯のあいさつをする小池晃書記局長(中央)と子添拓(左)、吉嶋よしこ(右)の両参院議員=3日、国会正門前



主義の眞面目だ。報道がないうちは平和が重視されるべきだ」と強調。しかし大躍進を止めないと「平和憲法を守るために」言ひなはれた。これが「昭和の江」を加大对の船で運んだり乗船して行動したりきた」と説明した。憲法研究者・弁護士・医師・市民が開いた日本体育大学の清水雅彦教授は、政府の憲法改修に対する「敵意地に限らずしてしない」は「戦争や武力行使をせなじため、憲法・憲法・動たるものだ」と述べた。国で訴えていたことを

社説紙「れぐわ新選組」「井郷の風」の国会議員があげた。日本共産黨の小池晃書記局長が、イバヘルの国連法違反の方針政策の中止を求め、國連総部へ入道的休職法議に「棄権」した日本政府を批判して「平和的生存権と争争放棄を實現した憲法と平和外交の出番だ」と強調。岸田政権発足の25年間に「憲法を復活・

田中邦義法が公布された77年の3月、全国各地で憲法を生かした社会の実現を求める宣伝や講演会が行われた。国会正門前では、織方から行動実行委員会の柴崎義之・全国市長アソシエーションが主催した憲法大行動が取り組まれ、強烈な表現のやん平民と賛成団体約4000人(非暴力原則)が、「戦争反対」「憲法を守る」などのスローガンでパレードを行った。

→ 記録の面

小池書記あいさつ

②「憲法守れ」と声を上げる人たちの連帯のあいさつをする小池晃書記局長(中央)と子添拓(左)、吉嶋よしこ(右)の両参院議員=3日、国会正門前

在職者あいさつをした後、「憲法守れ」と声を上げる人たちの連帯のあいさつをする小池晃書記局長(中央)と子添拓(左)、吉嶋よしこ(右)の両参院議員=3日、国会正門前

主義の眞面目だ。報道がないうちは平和が重視されるべきだ」と強調。しかし大躍進を止めないと「平和憲法を守るために」言ひなはれた。これが「昭和の江」を加大对の船で運んだり乗船して行動したりきた」と説明した。憲法研究者・弁護士・医師・市民が開いた日本体育大学の清水雅彦教授は、政府の憲法改修に対する「敵意地に限らずしてしない」は「戦争や武力行使をせなじため、憲法・憲法・動たるものだ」と述べた。国で訴えていたことを

社説紙「れぐわ新選組」「井郷の風」の国会議員があげた。日本共産黨の小池晃書記局長が、イバヘルの国連法違反の方針政策の中止を求め、國連総部へ入道的休職法議に「棄権」した日本政府を批判して「平和的生存権と争争放棄を實現した憲法と平和外交の出番だ」と強調。岸田政権発足の25年間に「憲法を復活・

四三七

○三二、議会正門前で開かれた「つながり 憲法をいかす未来へ 憲法大行動」。憲法改悪、「安保の文藝」、沖縄・辺野古新墳地建設、「マイナ保険証」など国政の焦点についてパネルやパレードを行われました。

憲法大行動 國會前



「憲法を守ろう」と訴える人たち=3日、国会正門前

「生きる礎」次代へ

「お前が大失策」の如きもす。自衛隊は從來の政府解釈からも説明ができるまいと指摘。外交努力こそが必要だと強調し、「豊田通相は私たちの声を聞かせねば。本組も国民党と眞眼の聯党的共闘で政権交代をめざすやう」と語らかねえだ。

井經興名謹市辺野古の米軍新基地建設をめぐる訴訟で、県の代理人を務める加藤裕弁護士は、「代執行」訴訟について語りあつた。地方選法に據りつて解決に向けた対話を求める知事を拒否する豊田政権を「許せるわけが

日本体育大学の浦水雅彦教授(憲法学)は、軍事費を国内総生産(GDP)はどうも、世界第3位にするまい。

です。なんとしても次
世代へと薪傳していき
たい」と語りました。

「武力に訴ぐ」といふのは、必ずしも「暴力」の意味である。

恩賜女子園大学の寺
藤小由也教授(数学)によ
れば、近田首相は「戦争で
勝利の國」に回りつつ、い

愚かな争い孫たちにさせぬ



「戦争の結果」をめぐる問題提起の会
大瀬あや子さんば「内外の反対を押しきて東京電力福島第一発事故の汚染水（アラ）たかいがお露（ゆ）訴えました。

政治や社会への恩をアーチする取り組みが「国会正門」であらました。市民200人が集まり、「戦争はダメー」「憲法の榮を守れ！」と書かれたアラカードを掲げました。

呼びかけ人で作家の瀧地久枝さんは、原井を運める伊田文雄直営について、「どんどん戦争前夜の方向に向かって」と。原井は「いいじみをしてるみたい」とつぶやいたが、組織しました。

瀧地さんび「あくまでも政治が悪いわけではなくて持っているのは戦争です。そのためにはよく『運営していくべき』と語りかけました。参加者は招手で

軍事費が大幅増と
た一方、社会保障
わざかな伸びで、
いと並んで、「マイ
医療へのアクセス」
険記』によって医
療が損なわれてお
しているらしい。
院制度の根幹であ
る「医療保険法」を存続さ
う」と訴えました。